

第2回三浦市公共下水道事業における民間資金等活用検討審議会

議事概要

- 1 日 時 平成29年3月24日（金）14時30分から17時20分まで
- 2 場 所 初声市民センター 2階講義室
- 3 出席委員 3名（1名欠席）
- 4 会議運営 非公開
- 5 議事概要

（1）VFM（Value For Money）について

ア 事務局の試算したVFMについて、意見交換が行われた。委員から出された主な意見は次のとおり。

（ア） VFMが出る大きな要因は建設改良費の差額であるが、PSCとPFI-LCCを項目別に総額で比較しただけではわからない。それぞれで、どの施設をいつ、どのくらいの費用で更新するかがわかれば、妥当かどうか判断ができるので示してほしい。（管渠の資産状況が不明な中で、正確な数値を示せるのか）

（イ） 財政課との一般会計繰入金の調整により改築の事業範囲が変わりうるとの説明だったが、この調整が完了しないと市が本当にコンセッションを導入するかわからないと言っているのと同じであり、現状では実施方針や募集要項の公表はできない。

（ウ） PSCはVFMを算出するためのひとつの想定計算であり、一定の時期を決めて、その段階で考えられる内容（財政課との調整による一般会計繰入金など）で保守的に算出したらよい。

（エ） モニタリングは必要だが、どこまで外部に依頼しどの程度の費用を見込むかは、モニタリングで何を見るかを具体的に決めていかないと整理できない。

（オ） 人口減少率は、市の推計と大きく乖離した場合のリスク分担につながっていくので、データを示してもらい、しっかりと詰めていく必要がある。

（カ） PSCを算定したときにストックマネジメント計画が反映（策定）されていないと、ストックマネジメント計画の策定後に事業期間中の改築費用が大きく変動してしまう。ストックマネジメント計画は、先に策定しておく必要があるのではないか。

（2）実施方針素案について

ア 今後、事業スキームやVFMの精査を進めるにあたり、民間事業者の意見を聞くため、公表を予定している実施方針素案について、意見交換が行われた。委員から出された主

な意見は次のとおり。

- (ア) 市独自の考え方を反映した「汚泥減少リスク」について、市特有の汚泥処理方法によるリスクと推察されるが、下水道事業以外の要素も含むため、盛り込むべきものかもう一度整理してほしい。
- (イ) 市独自の考え方を反映した「管路破損等に起因する道路陥没リスク」について、計画に基づく修繕を実施する以前は市が負担するとなっており、修繕するまでは市がリスクを負うこととなる。また、「施設損傷リスク」の場合も、引渡し時に状況の不明な施設が運営中に損傷した場合は市が負担とあり、管渠の修繕はほとんど市が負担することになり、あまりにも市が不利な条件になっている。
- (ウ) 今後のスケジュールについて、4月中に修正内容の確認、5月に事業方針素案の公表としているが、市の方針を固めなければならない部分があり、もう少し内容を詰めたほうがよい。公表するのはひとつの手段であり、否定するわけではないが、審議会として内容をもう少し確認したい。
- (エ) 市として素案を公表するという意思決定をいつするのか、いつまでに素案を検討するのか、スケジュールを検討してほしい。

6 次回審議会の開催について

委員の意見を踏まえ、事務局でスケジュール等を整理のうえ、別途調整することとした。